

三上智恵監督来る！！

映画『戦雲（いくさふむ）』

県内連続上映会／今年最後の上映

上映：12月15日午後1時～

会場：大月市民会館

終了後三上監督のトーク

山梨版

甲府市徳行4-3-17
TEL055-287-6272
山梨県平和委員会

沖縄連帯行動

○12月17日（火）

○1月15日（水）

甲府駅南口

毎回12時半～13時

全国首長九条の会「総会と市民のつどい」

改定地方自治法は戦争準備法

11月24日 東京で全国首長九条の会の「総会と市民のつどい」が開催されました。

つどいで取り上げたのは今年6月に可決成立した改定地方自治法「国民の安全に重大な影響を及ぼす事態が生じるおそれがあると認められる場合には 国に地方自治体を指示する権限を付与する」というもの。

はじめに問題提起に立ったのは長年この問題に取り組んできた田中隆弁護士。

田中氏は、発動に際しての縛りが極めて緩やかで、「おそれ」の段階で発動できどんなことでも命じることができると指摘。自治体を丸ごと戦争態勢に組み込むもので、平和を守るたにかいと地方自治を力づよく発展させるたたかいを前進させようと訴えました。

続いて元宜野湾市長で参議院議員の伊波洋一さんは、「全島避難などが進む沖縄から」と題して報告。先島諸島（宮古、八重山）の全島民12万人を6日間で島外に避難させる図上訓練などの実態が報告されました。

ジュネーヴ条約を盾に

改定法では、担当大臣は、「重大影響事態」が発生し、又は発生するおそれがある場合に、閣議決定及び自治体からの資料又は意見の提出を得た上で必要な指示をすることができるとされている。

閣議決定は時の政権の判断でなされるものなので、何かの機会をとらえて「地方自治体への協力要請」といった形で簡単に決定されることも否定できない。

既に「おそれ」の段階ではないのか

安保3文書が決定され、巨額の軍事費で戦争できる国づくりを進めている今日の状況は「攻められるおそれ」があるからではないのか。

衣の下にミサイル

国会の論戦では、法案に反対する立憲、共産、れいわなどが政府を追及。追い詰められた政府は、「武力攻撃事態等への対応は必要な規定が整備されている」と答弁せざるを得ませんでした。

この答弁に忠実にあれば、武力攻撃に際する指示権発動は封印されたことになり

【解説】

これほど露骨に、しかも見え透いた「真の狙い」を隠した制度があるだろうか。

今回の地方自治法の改定の一歩の狙いは、安倍政権以来積み重ねてきた「戦争できる国」づくりに地方自治体を巻き込むことに他ならない。

これでは「縛り」にならない

政権が、メディアを巻き込んで「戦争体制」に突き進むとき、地方は「平和の砦」であるべきです。現在の自治体に果たしてその自覚はあるのか。

市民の運動によって揺るぎない砦を築かねばならない。「平和の準備」を地域の隅々にまで組織することが求められているのか。（倉嶋清次）

元国立市長の上原公子さんは市長時代、「国民保護計画」づくりに反対して政府の担当官とやりあった経験を紹介。政府はジュネーヴ条約を盾に、住民を避難させる計画を作るよう強硬に主張したとのこと。

12.8県民のつどい

講演：赤嶺政憲衆議院議員

テーマ：沖縄の情勢と「オール沖縄」の取り組み

12月6日（金）18時～

ぴゅあ総合

主催：母親連絡会・革新懇

講演会『平和自治権で描こう 世界平和の地図を』

講演：白藤博行さん（専大名誉教授、弁護士）

12月7日（土）14時～

朝日小「悠遊館」（甲府市塩部）

主催：朝日9条の会

明眸

11月16日の平和大会（オンライン）で、息子3人が自衛隊に入って、三男Aさんが長時間労働と上官のパワハラで自死したことについて訴訟を起こしている父親の話があった。

国は長時間労働だけは認めたが、パワハラについては認めない。父親は、「今後息子のようなことが起こらないことを願った」と述べている。

▼自衛隊の『総合採用案内』には、「自衛隊では、勤務時間（17時）以降は自由に自分の時間がとれ、長期休暇も取れることや困った時は教官や仲間が必ず支えてくれる」などと書かれ、楽しい、スキルが身につく、一生の仲間ができる、福利厚生が充実などいいことがたくさん書いてある。

▼しかし、『平和と運動誌』では、前述のAさんについて、「未成年で喫煙をしたことで、自衛隊本部の処分だけではなく、現場上司の私的制裁（身体拘束と自由の制限）をうけたことをあげ、階級社会である自衛隊は『権力社会』であり、パワハラが起きているのは必然である。」と書かれている。

▼自衛隊はパワハラ、セクハラ問題だけではなく、若者の名簿提出問題、憲法9条の改悪問題など戦争準備に直結する問題が満載である。目を背けずにならぬ。（坂）

“学びの秋” 各地で学習活動

甲府市平和委員会

11月16日、『なくそう！日米軍事同盟・米軍基地2024日本平和大会』がオンライン開催され、山梨県では6か所で開催された。大会に先立って、県内各地で学習会が持たれました。山梨市と甲府市で開催された学習会の様子をレポートします。

FKY（峡東地区平和委員会）

10月15日、山梨市で開かれた学習会では、日本平和委員会事務局長千坂純さんの解説をユーチューブで視聴しました。意見交換では次のような議論がありました。

○日本国憲法で「戦争はしない」と約束したのに、「平和国家」の実績をくつがえしてきた自公政権。国会で「戦争国家づくり」のための悪法がどれほど強行されたか。
○沖縄・南西諸島、九州、全国で基地強化が進んでいる。「日本を守る」ためではなく「アメリカのための軍拡」ではないか。
○平和を守るためには、核兵器禁止条約批准を求める運動を更に広げること。
○ASEANに学び東アジアの包括的な平和の枠組みを追求すること。
○何よりもまず日米軍事同盟を破棄すること。
11月8日の「平和カフェ」。講師は山梨県平和委員会事務局次長の菅沢三郎さん。テキストは「2024日本平和大会学習パンフ」。

平和のバトン

私が平和の大切さについて、理屈としてではなく感覚的にも理解できた最初の機会は、大学1年生の時に学生自治会が主催した故・早乙女勝元さんの東京大空襲を聞いた時です（早乙女勝元著『東京大空襲1昭和20年3月10日の記録』岩波新書）。話の順序までは覚えていませんが、早乙女さんの話で今でも記憶に残っている内容は、次のとおりです。「1945年3月10日未明に約10万人が死亡した東京大空襲では、隅田川の川面にも土手にも無数の死体が折り重なるように転がっていました。その日のうちに救助活動を行った人から私（早乙女）

私ことから平和を考える

豊田 保

が聞き取った話の中で一番印象に残っているのは、うつ伏せの姿で焼け死んでいた若い母親の死体のことです。両手の爪が剥がれていて、指には血が滲んでいたそうです。最初は救援者も状況が呑み込めなかったのですが、お腹の下は土手の土が掘っており、その中で

の底から感じました。もう一つ、私が戦争の残酷さを肌身で感じたのは、故・森村誠一さんが著した『悪魔の飽食』（光文社）を読んだ時でした。この著書には旧満州国にあった日本軍の研究機関が捕虜である中国人やロシア人を対象に、細菌兵器をつくるための人

して、色々な角度から理解する必要があります。社会情勢や政治動向の分析から理解する方法もあります。反対に、自分自身の日常生活や人生との関連において、個人的な視点で平和や戦争を理解する方法もあります。例えば、私たちは社会の諸々の出来事を理解するた

という問いから出発して、その良し悪しを判断することが出来ます。これらには私たちの人生を豊かにする要素は何もないと判断できません。私たち国民の生活や人生を豊かにしないなら、その施策は社会情勢や政治情勢が求めていると理屈を述べても基本的に誤りです。

プロフィール
豊田 保
（とよだ たもつ）
新潟医療福祉大学大学院社会福祉学専攻長（教授）などの大学教授を定年退職。現在「市民連合やまなし」運営委員など。保健福祉学博士。



赤ん坊が死んでいたことと。私は、その話を聞いて愕然としました。」との講演部分です。この話を聞いて早乙女さんが愕然としたように、18歳の私も衝撃を受けました。戦争とは、子どもである人間が自分の意思に関係なく殺される行為を伴うものであると心に

体実験を生身の人間で行っていたことが記録されています。この行為は、戦場において銃で相手を殺害し合う行為よりも残酷で非人間的だと感じました。人間性や良心を「悪魔」に変えてしまうことが戦争の本質であると実感しました。

戦争や平和を理解する方法は様々です。そのために、何事も私事（わたくしごと）の視点から理解し、そこから社会や国の在り方を考える方法も持っています。そこで、軍事費の急激な増額や軍需産業の育成、自衛隊の米軍との一体化、憲法9条を否定する動きは、私たち一人ひとりに何らかの人生の豊かさや利益を少しでももたらすのか？

『原爆と人間パネル』展

秋に公民館で開催

原爆の悲惨さを伝えようと毎年設営されてきた『原爆と人間パネル』展。恒例の8月だけでなく秋にも開催されるようになるとともに、公民館での開催も広がっています。

11月10日～11日、山梨市の日下部公

民館では、原爆と人間パネルや広島の高校生の描いた絵に加え、ノーベル賞受賞のニュースも展示されました。訪れた市民は「公民館でこのような展示がなされるのはとても良いことです」と感想をもらし、署名に協力していました。



館長は、「公民館は平和を願う人々の利用は拒まない、場所を提供することとは全くやぶさかではない」と語っていました。11月16日～17日には甲州市奥野田公民館でパネル展示に加え、核兵器禁止条

ちょっと気になる

新婦人笛吹支部が笛吹高校前で実施した署名活動を取材しました。「平和のための署名でうす」と声を掛けると、生徒たちは自転車を含めて署名に応じしてくれます。でも、「住所はちょっと・・・」という生徒が多いのが気になります。このご時世、「住所は他人に教えてはいけない」と親や先生に言われているのか。

山梨平和委員会女性部企画『平和ツアー』のご案内

東京都夢の島にある「第五福竜丸第五福竜丸展示館」の見学ツアーを2025年4月5日（土）に予定しております。担当者2名で下見をしてきました。展示館の担当者に丁寧な説明をしていただきました。第五福竜丸を間近に観て、辿った過酷な実像に改めて核兵器使用の恐ろしさと被災した方々の人生を想い、核廃絶運動の更なる前進あるのみと決意。皆様のご参加をお待ちしています。（河村ゆかり）

